

## 運営推進会議開催報告書

下記事業所について、次のとおり運営推進会議を開催したことを報告します。

## 1. 基本情報

事業所名	都筑区医師会ナーシングホーム		
サービス種別	看護小規模多機能型居宅介護		
所在地	横浜市都筑区牛久保西1-20-21		
担当者	吉井 涼子	連絡先	045-913-6321
運営法人	一般社団法人 横浜市都筑区医師会		

## 2. 開催日時・場所

日時	平成29年9月8日13時30分～14時00分	場所	医師会館理事長室
----	------------------------	----	----------

## 3. 出席者

氏名	分野	備考(所属・従事経験など)
木下 均	地域住民の代表者	牛久保西町内会 会長
松本 裕	地域住民の代表者	中川地区民生委員児童委員協議会 会長
成田 真一	当該サービスに知見を有する者	中川地域ケアプラザ 所長
堀元 隆司	当該サービスに知見を有する者	堀元歯科医院 院長
斉木 和夫	当該サービスに知見を有する者	斉木クリニック 院長
小林 雅子	当該サービスに知見を有する者	小林クリニック 副院長
小川 憲章	当該サービスに知見を有する者	小川メディカルクリニック 院長
谷合 清佳	市の職員又は地域包括支援センターの職員	都筑区役所 高齢者支援課係長
大山 学	法人代表	
吉井 涼子	管理者	
宮島 佳代	看護主任	
石濱 千秋	計画作成者	
青柳 かおる		
後藤 瑞佳	事務	
上條 由佳	事務	

## 4. 活動状況報告

別紙のとおり
--------

(裏面あり)

## 5. 活動状況に関する評価・意見・要望

### ■毎日デイを利用している高次機能障害者や糖尿病の事例について

1. 通所の時間は9～16時までということだが、それ以降の時間は、延長料金など別途は取れない？
2. ご利用者やご家族が、自宅で過ごすためのイメージ作りが大事ではないか、毎日のデイ利用や連泊の要望が家族から出たときは、こちらから提案していくことを必要だと思うが。
3. 家が基本、「お家が良いでしょ！」というオーラを出すとよい。提案の仕方、言い方もあるのでは。

## 6. 評価・意見・要望に対する考え・取組

### 【意見1】

⇒別途料金は取れない。

### 【意見2・3】

⇒本事例についても、一日家にいることができるように提案し、ご家族と話し合いをしたが返事をもらえない。連泊が続いている利用者に対しても、提案をしているが、なかなか受け入れてもらえない。ご家族それぞれが精一杯介護しているのがわかるので「仕方がない」と思っているのが伝わってしまうのかもしれない。今後、理解してもらえるように伝え方やタイミングを検討していきます。

## 7. 地域からの情報提供

・足りないこと、時間外の運転・送迎など町内会で協力できることはしていきたい。

## 8. その他特記事項

・特になし

活動状況報告書(小規模多機能型居宅介護・看護小規模多機能型居宅介護)

1. 基本情報

事業所名	都筑区医師会ナーシングホーム		
所在地	横浜市都筑区牛久保西1-20-21		
担当者	吉井 涼子	連絡先	045-913-6321
運営法人	一般社団法人 横浜市都筑区医師会		

2. 登録者の状況

登録者数(月1日現在)	女性 13 名		男性 3 名		計 16 名	
要介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請・区変中
	1 名	2 名	1 名	3 名	8 名	1 名

3. サービス提供回数(会議開催の前月分)

登録者	年齢	通い	泊まり	訪問看護	訪問介護	備考(入所日、退所日など)
ア	81	26	0	2	0	
イ	87	11	2	2	0	
ウ	92	28	2	1	0	
エ	73	15	10	5	0	
オ	58	8	0	5	22	
カ	98	17	13	5	73	
キ	97	28	26	5	4	
ク	79	1	0	1	0	
ケ	73	31	31	2	0	
コ	89	27	24	43	5	
サ	70	21	20	0	0	
シ	92	25	4	0	41	
ス	79	9	0	0	22	8/7退院
セ	84	9	0	11	44	
ソ	55	19	0	0	0	
タ	76	30	27	0	4	
チ						
ツ						
テ						
ト						
ナ						
ニ						
ヌ						
ネ						
ノ						
ハ						
ヒ						
フ						
ヘ						
合計		305	159	82	215	
平均	80.2	19.1	9.9	5.1	13.4	

(裏面あり)

#### 4. 運営方針

事業所の目標	【利用者の獲得】1. 適切な職員の確保と黒字転換 2. 「ケアの理念」の実現 「ケアの理念」:その人の「生きる」を支える。寄り添い、理解し、尊重する
目標に向けた具体的取組	1. 求人活動と既存の職員が充実した仕事ができ辞めないようにする 2. カンファレンス記録による情報の共有をしている 3. 利用者や家族の意向を反映した多職種でのケアプランの作成と共有を目指している 4. 研修計画の実施

#### 5. 活動報告

7月7日	七夕イベント
7月11日	消防立ち入り検査
7月12日	運営推進会議 防火訓練
7月18日	夏祭り
8月9日	高齢者施設における感染対応指導者養成研修会参加
8月17日	横浜市小規模多機能型居宅介護事業連絡会参加
8月18日	都筑区新任ケアマネ研修会にて看多機の説明
8月21～25日	デイルームでカフェタイムを設ける

#### 6. 事故・ヒヤリハット報告

内容	1. 食後薬のラクソベロン(水薬)の中にラクソベロン13滴を入れて2名で確認して準備をしていた。準備をしなかった別の夜勤者が服薬介助の際にラクソベロン13滴を入れ提供した。夜勤帯に薬の提供をするのは、自分になるだろうと思っていた。 2. 排泄介助をする際にエアマットのエアを確認すると完全に空気が抜けていた。 3. 利用者の爪きりの際に左手第4指の指先の皮膚を挟んでしまい、少量出血あり。直ぐに看護師に報告、指示にて絆創膏で保護した。
改善策	1. 夜勤帯で職員が少なくとも誰が服薬介助するか分からない。事前準備する際は、必ずメモを貼る。 2. ベッドを動かす時はコンセントを確認する。また、来室の際にエアマット使用者は、エアマットのエアやコンセントの確認を行なう。 3. 爪きりで爪をきちんと挟めているかを確認する。又、爪と皮膚が一体化しているような方は、ニッパーややすりを使用する。

#### 7. 地域への情報提供

特になし
------

#### 8. その他特記事項

特に無し
------